

事務事業名		森と湖に親しむ旬間岩手県実行委員会参画事業				☐ 実施計画登載事業 ☐ 総合戦略登載事業	
政策体系	政策名	016 自然豊かな環境の保全と創造				事業期間	
	施策名	27 自然環境の保全					
	基本事業名	02 自然環境保全活動の推進				☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成15 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
根拠法令						予算科目	
所属	部課名	都市整備部建設課				会計	
	課長名	金野 尚一				款	
	係名	業務係	電話	27-3111		項	
	担当者	鈴木 唯斗	内線	312		目	
						事業	
						事務事業区分	
						A 政策事業 B 施設整備 C 施設管理 D 補助金等 E 一般(A～D以外)	

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)
 国土交通省及び林野庁では、昭和62年度から、国民を対象に森林や湖に親しむことにより、心身をリフレッシュしながら、森林やダム等の持っている自然豊かな空間や社会生活にはたしている役割について理解を深めていただくことを目的として、毎年7月21日から7月31日までを「森と湖に親しむ旬間」として定めている。
 岩手県では森と湖に親しむ旬間岩手県実行委員会を設置し、自然豊かな森と湖に集い、自然環境に親しみ、人と人との交流を深め、安らぎや潤いを感じてもらい機会を提供し、森林やダムについての理解を深めてもらうことを目的として各種行事を開催している。岩手県実行委員会大船渡分科会では国土交通省、林野庁及び岩手県実行委員会の目的に沿って、平成15年度から平成18年度までは「綾里川ダム湖畔の集い」を開催し、平成19年度からは、供用を開始した鷹生ダムを会場に「五葉湖畔の集い」を開催している。分科会構成員としての市の主な業務は、関係団体等との調整打ち合わせ、会場設営・後片付け、広報紙掲載によるPR、当日のイベント運営などである。事業費は、負担金として支出される。

全体計画(※期間限定複数年度のみ)	
総投入量(千円)	事業費
国庫支出金	
都道府県支出金	
地方債	
その他	
一般財源	
事業費計(A)	0
人件費	
正規職員従事人数	
延べ業務時間	
人件費計(B)	0
トータルコスト(A)+(B)	0

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

前年度実績(前年度に行った主な活動)

令和元年7月28日に「第11回五葉湖畔の集い」を実施した。

今年度計画(今年度に計画している主な活動)

コロナの影響により今年度開催中止。

② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等

「五葉湖畔の集い」来訪者

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

(五葉湖畔の集い来訪者に)ダムの社会的機能(多目的の中でも特に水道水確保)を理解してもらう。

④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)

環境負荷を軽減し、公共用水域の水質を保全する。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)

名称	単位
ア 打ち合わせ参加回数	回
イ	
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)

名称	単位
カ 「五葉湖畔の集い」来訪者数	人
キ	
ク	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)

名称	単位
サ ダム展示室見学者数	人
シ	
ス	

(2) 総事業費・指標等の推移

			年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(実績)	2年度(目標)
			単位						
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円					
			都道府県支出金	千 円					
			地方債	千 円					
			その他	千 円					
			一般財源	千 円	40	40	40	40	40
			事業費計 (A)	千 円	40	40	40	40	40
	人件費	正規職員従事人数	人	22	21	21	11	20	20
		延べ業務時間	時 間	178	178	170	88	162	162
		人件費計 (B)	千 円	712	712	680	352	648	648
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	752	752	720	392	688	688
⑤活動指標		ア	回	2	2	2	2	0	
		イ							
		ウ							
⑥対象指標		カ	人	642	664	528	0	430	0
		キ							
		ク							
⑦成果指標		サ	人	45	63	133	0	12	133
		シ							
		ス							

事務事業ID	0682	事務事業名	森と湖に親しむ旬間岩手県実行委員会参画事業
--------	------	-------	-----------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	平成12年に綾里川ダムが完成したことによる。また、「森と湖の旬間」は昭和62年度から定められている。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	平成15年度から平成18年度までは「綾里川ダム湖畔の集い」を開催し、平成19年度からは、供用を開始した鷹生ダムを会場に「五葉湖畔の集い」を開催している。
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	特になし

2 評価の部(SEE)＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 自然豊かな森と湖に集い、自然環境に親しみ、人と人との交流を深め、安らぎや潤いを感じてもらう機会を提供し、森林やダムについての理解を深めてもらうための事業は、自然豊かな環境の保全と創造につながっている。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 この事業を実施することにより、ダムの社会的機能(多目的の中でも特に水道水確保)の周知をすることができるので妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 「五葉湖畔の集い」は来訪者を対象に、ダムの社会的機能等を理解してもらうために開催しているので適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 五葉湖畔の集いの来訪者は、平成28年度の竣工10周年特別イベントで過去最高を記録したが、翌年度からはイベント数が例年並みに減ったことなどにより減少傾向にある。イベント内容やPR方法の見直しにより向上の余地はある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 ダムの社会的機能(多目的の中でも特に水道水確保)を理解してもらう場が少なくなる。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 実行委員会で決定された大船渡市の負担金であり、市単独の判断で削減できない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 実行委員会大船渡分科会の事務局は県(大船渡土木センター)であり、市では最低限の業務を担っているので削減余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 「五葉湖畔の集い」には誰でも参加できるし、負担金は県と市で支出しているので、公平・公正である。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性		(2) 改革・改善による期待成果																						
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止		左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																						
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等		→ <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>●</td><td>×</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		●	×																				
	低下		×	×																				
現状維持で継続して事業を実施する。																								

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止	現状維持で継続して事業を実施する。